

4-4-1 平成29年度 一般会計予算

(1) 収入の部

科目	平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	増減(△)	摘要
繰越金	250,000	297,111	250,000	0	
本部交付金	228,430	237,260	228,430	0	
雑収入	0	47	0	0	
合計	478,430	534,418	478,430	478,430	

(2) 支出の部

科目	平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	増減(△)	摘要
講師旅費・謝金	180,000	175,000	180,000	0	謝礼・交通費
事業費	50,000	7,743	50,000	0	ワークショップ・サーバ利用料
会場費	0	0	100,000	100,000	会場未定
運営費	50,000	12,710	30,000	△20,000	記録メディア等
研究調査費	50,000	0	30,000	△20,000	研究資料・書籍
備品運搬費	30,000	0	10,000	△20,000	機材運搬
事務通信費	10,000	3,064	10,000	0	文書郵送費
備品購入費	25,000	0	15,000	△10,000	機材購入
予備費	83,430	0	53,430	△30,000	雑費
合計	478,430	198,517	478,430	0	

4-4-2 平成29年度 特別会計予算

(1) 収入の部

科目	平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	増減(△)	摘要
繰越金	200,000	149,000	60,000	△140,000	
企業広告協賛金	130,000	100,000	100,000	△30,000	
雑収入	0	0	0	0	
合計	330,000	249,000	160,000	△170,000	

(2) 支出の部

科目	平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	増減(△)	摘要
運営費	80,000	91,595	60,000	△20,000	
役員費	130,000	98,316	80,000	△50,000	
積立会計	100,000	0	0	△100,000	
予備費	20,000	0	20,000	0	
合計	330,000	189,911	160,000	△170,000	

4-4-3 平成29年度 積立会計予算

(1) 収入の部

科目	平成28年度 予算額	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	増減(△)	摘要
繰越金	150,000	151,924	89,192	△60,808	
特別会計より	100,000	0	0	△100,000	
雑収入	0	0	0	0	
合計	250,000	151,924	89,192	△160,808	

4-4-4 平成29年度 一般会計中間報告

(1) 収入の部

科目	平成29年度 予算額	中間報告	増減(△)	摘要
繰越金	250,000	335,901	85,901	
本部交付金	228,430	234,920	6,490	調査研究費、講師謝金
雑収入	0	3	3	利息
合計	478,430	570,824	92,394	

(2) 支出の部

科目	平成29年度 予算額	中間報告	残額	摘要
講師旅費・謝金	180,000	0	180,000	
事業費	50,000	5,142	44,858	サーバ利用料
会場費	100,000	0	100,000	
運営費	30,000	2,800	27,200	役員会お茶代
研究調査費	30,000	3,446	26,554	DVD-R,CD-R
備品運搬費	10,000	0	10,000	
事務通信費	10,000	3,272	6,728	振込手数料、切手
備品購入費	15,000	0	15,000	
予備費	53,430	0	53,430	
合計	478,430	14,660	463,770	

4-4-5 平成29年度 特別会計中間報告

(1) 収入の部

科目	平成29年度 予算額	中間報告	増減(△)	摘要
繰越金	60,000	59,089	△911	
企業広告協賛金	100,000	30,000	△70,000	
雑収入	0	0	0	
合計	160,000	89,089	△70,911	

(2) 支出の部

科目	平成29年度 予算額	中間報告	残額	摘要
運営費	60,000	26,770	33,230	紙ファイル、参加者飲み物代
役務費	80,000	16,910	63,090	役員旅費
積立会計	0	0	0	
予備費	20,000	0	20,000	
合計	160,000	43,680	116,320	

4-4-6 平成29年度 積立会計中間報告

(1) 収入の部

科目	平成29年度 予算額	中間報告	増減(△)	摘要
繰越金	89,192	89,192	0	
特別会計より	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
合計	89,192	89,192	0	

(2) 支出の部

科目	平成29年度 予算額	中間報告	残額	摘要
運営費	—	0	—	
役務費	89,192	67,280	21,912	全高情研派遣旅費
事務通信費	—	0	—	
予備費	—	0	—	
合計	89,192	67,280	21,912	

4-5 平成30年度の研究テーマ

平成30(2018)年度研究テーマ趣旨説明文

学習指導要領が改訂され、2019年度から先行実施されようとしています。中でも注目すべきは、「主体的・対話的で深い学び」の重要性と共に、「プログラミングに関する教育」の充実が打ち出されていることです。小中学校でも「プログラミング」という用語が何度となく現れています。日本の初等中等教育にとってはまさに、黒船襲来とも言える出来事です。

しかし私たちは、このことをけっして受け身に捉えるのではなく、この機会を積極的に活用していくことを考えなければなりません。生徒たちがその将来において必要とされる「汎用的な有用性を持つ力(ジェネリックスキル)」は、本来さまざまな知的訓練を通じて獲得されるものですが、「プログラミング的思考」は中でも最も有効なスキルの一つであると考えられるからです。

小学校では、学習内容と関連付けながら、生活の中でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることを。中学校では、特に技術家庭科の技術分野において、社会におけるコンピュータの役割と影響の理解や、簡単なプログラムを作成できるようになることを。高等学校では、生涯にわたって情報や情報技術を問題の発見と解決に活用することや、それによって科学的な理解や思考力を育むことを。

このように、プログラミングに関する教育が初等中等教育の中で一貫した形に描かれることによって、高等学校の情報科は情報教育における中核的存在であることが示されたと言えます。そうである以上、私たちは目の前の「プログラミングができる」ことにばかり注目するのではなく、プログラミングの意味や効果などを深く考察した上で、本来的な学習活動のデザインに取り組まなければなりません。

そうは言っても、これまでも課題が少なからず存在しています。情報科の教育は、コンピュータ(インターネット)教育やプログラミング教育であるなどと言ってしまえるように単純なものではありません。もちろん、それらに関する知識やスキルは必要不可欠な要素ですが、それらは方法や手段であっても、それ自体が目的化されるものではありません。しかし、現行の学習指導要領の元で多くの学校では、プログラミングとは近いとは言えない位置にある「社会と情報」を選択履修し、その内容もオフィス系ソフトウェアの操作方法を中心としていることが想像以上に多いようです。

また、情報教育の目的が、「情報社会を支える産業界のIT人材を育成し、その裾野を広げていくこと」であると、世の中で当たり前のように語られることに驚くことがあります。情報教育の本来的な意義を、教育に携わるかどうかを問わず、すべての人と社会全体とが当たり前のこととして理解していることが重要ですが、それはとても難しいという現実もあります。

一方で、これからの課題も見えてきました。改定される学習指導要領が私たちに求めるスキルは思いの外広く深く、加えてさらに、情報デザインや情報コンテンツの制作、情報発信の基礎となるネットワークに関することなど多岐にわたります。これ程の内容に応えようとするれば、単に知識やスキルを積み重ねるだけではなく、それらの科学的な理解や深い洞察に基づいた根源的な学びの在り様に対して、私たちは真摯に真正面から取り組む必要があります。

人は日常的に問題解決を行っています。生きること自体が問題解決であると言っても過言ではありません。しかし、そのプロセスに対して自覚的に、主体的に取り組もうとする姿勢には欠けてしまう傾向があります。私たちは生徒と共に、意欲を持って創造的に問題を解決する経験を通して、情報社会に埋もれずに積極的に参画できるような態度を育てていく必要があります。

そのためには、まず私たち自身が生徒の目線に立つこと。その上で、日常的なさまざまな事象の中に問題を発見し、曖昧で複雑な状況を整理して課題を明確にし、試行錯誤を繰り返しながら具体的な解決方法を獲得すること。そうして、そのような経験から作成した教材を私たちの知見として共有し、さらに互いにブラッシュアップし、誰もがやってみたいと思える魅力ある授業の実践を積み重ねていく必要があるのです。

昨年度の研究テーマ「情報科リポート(新たな気持ちで授業づくりに向き合おう)」を受けて、私たちの決意をさらに前へと進めましょう。生徒たちに今必要とされる学びを明らかにし、私たちの中で共有することで確かなものへと磨き上げ、試行錯誤を通して学習過程のデザインを具体的なものへと昇華させる。そして、それらの蓄積を相互にリンクさせることで、新学習指導要領に対応した力強い研究体制を築き上げる。一人では難しいかもしれない、でも、私たちそれぞれの力が合わされば可能になることが少なからずあるはずです。

以上を提案趣旨として、平成 30(2018)年度の研究テーマを次のように示します。

「学習活動をデザインする」研究開発の推進 **(問題解決への心の構え、個々からコミュニティへ)**

MEMO

4-6-1 研究紀要

情報部会では下記により、次年度に向けての研究紀要の執筆者を募集します。執筆は個人によるものでもグループによるものでもかまいません。日頃の研究の成果を発表する場としてご利用いただきたいと思いますとおります。

平成30年度北海道高等学校教育研究会研究紀要執筆者の募集について

平成31年3月に発行される本研究会「研究紀要第56号」の教科部会「情報」の執筆者を募集します。募集する研究論文は、高教研の研究主題である、

「未来を担う人を育む北海道高等学校教育の創造」

に沿ったもので、以下の要件を満たしているものです。

(要件)

- ・執筆者は高教研の会員に限る。
- ・個人的でない内容である。
- ・単年度で完結した研究である。
- ・高校教育に関わる研究である。
- ・数年度のスパンにおいて、特定校・特定個人に偏らない。
- ・文字数は25,000文字以内(横25文字×1,000行)

個人もしくはグループで執筆を希望する会員は、研究紀要募集担当(高教研情報部会事務局担当鶴間(neo_turuq@yahoo.co.jp))にご連絡ください。choice メーリングリストでも募集案内を流します。執筆に関する質問もこちらで承ります。

執筆の希望者が複数出た場合は役員会で執筆者の選考を行います。

4-6-2 キャラバン研究会

積み重ねた実践を互いに共有し合うことで、生徒の学習意欲を高めながら全道各地で質の高い教育活動ができることを目指し、今年度に引き続き、キャラバン研究会を実施します。次年度は、実施実績の少ない各地区管内での実施を努力目標とします。キャラバン研究会の開催についてのお問い合わせは高教研情報部会事務局担当鶴間(neo_turuq@yahoo.co.jp)まで。

4-6-3 高教研情報部会アンケート

北海道内の情報科と担当する先生方が置かれている状況を把握・共有し、高教研情報部会としての活動をより有意義で質の高い先生方のニーズに合ったものにするために、次年度もアンケートを実施します。なお、前回のアンケートでいただいたご意見を基に、アンケート設問や結果の報告などについての検討・改善を加えます。

4-6-4 全国高等学校情報教育研究会全国大会参加派遣

北海道の情報科教育の質をより高いものにするを目的として、高教研情報部会会員の、全国高等学校情報教育研究会全国大会への参加派遣を行います。

次年度も、派遣人数は原則1名とし、choiceウェブページ上およびchoiceメーリングリストで告知し、希望者を募ります。派遣者は高教研情報部会総会での報告義務があります。

平成30年度第11回全国高等学校情報教育研究会全国大会は、2018年8月9日(木)・10日(金)、場所は秋田公立美術大学(秋田市新屋大川町12-3)です。

全国大会の詳細は、<http://www.zenkojoken.jp/>で確認してください。

4-7-1 平成30年度 一般会計予算案

(1) 収入の部

科目	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	平成30年度 予算額	増減(△)	摘要
繰越金	297,111	250,000	300,000	50,000	
本部交付金	237,260	228,430	228,430	0	
雑収入	47	0	0	0	
合計	534,418	478,430	528,430	50,000	

(2) 支出の部

科目	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	平成30年度 予算額	増減(△)	摘要
講師旅費・謝金	175,000	180,000	180,000	0	謝礼・交通費
事業費	7,743	50,000	50,000	0	ワークショップ・サーバ利用料
会場費	0	100,000	0	△100,000	
運営費	12,710	30,000	50,000	20,000	記録メディア等
研究調査費	0	30,000	50,000	20,000	研究資料・書籍
備品運搬費	0	10,000	30,000	20,000	機材運搬
事務通信費	3,064	10,000	10,000	0	文書郵送費
備品購入費	0	15,000	75,000	60,000	機材購入
予備費	0	53,430	83,430	30,000	雑費
合計	198,517	478,430	528,430	50,000	

4-7-2 平成30年度 特別会計予算案

(1) 収入の部

科目	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	平成30年度 予算額	増減(△)	摘要
繰越金	149,000	60,000	60,000	0	
企業広告協賛金	100,000	100,000	100,000	0	
雑収入	0	0	0	0	
合計	249,000	160,000	160,000	0	

(2) 支出の部

科目	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	平成30年度 予算額	増減(△)	摘要
運営費	91,595	60,000	60,000	0	
役務費	98,316	80,000	90,000	10,000	
積立会計	0	0	0		
予備費	0	20,000	10,000	△10,000	
合計	189,911	160,000	160,000	0	

4-7-3 平成30年度 積立会計予算案

(1) 収入の部

科目	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	平成30年度 予算額	増減(△)	摘要
繰越金	151,924	89,192	21,912	△67,280	
特別会計より	0	0	0	0	
雑収入	0	0	0	0	
合計	151,924	89,192	21,912	△67,280	

5 その他

5-1 北海道高等学校教育研究会 情報部会規約

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、北海道高等学校教育研究会情報部会と称する。

(目的)

第2条 本会は、北海道高等学校教育研究会の目的に準じ、共通教科ならびに専門教科「情報」の教育(以下、情報教育と称する)に関する事項を研究し、会員相互の研修と識見の向上につとめ、情報教育の振興を図る。

(会員)

第3条 本会の会員は、北海道高等学校教育研究会の会員であつて、情報教育を研究する者、ならびに情報教育の趣旨を生かした教育活動を行おうとする者をもって構成する。

第2章 事 業

(事業)

第4条 本会の目的を達成するため、情報教育に関する研究を通して下記の事業(北海道高等学校教育研究会会則第4条による)を行う。

- (1) 研究会の開催
- (2) 機関誌への寄稿
- (3) 講習会、講演会の開催
- (4) その他本会の目的達成に必要と認められる事業

第3章 組 織

(役員と任務)

第5条 本会の役員と任務は、次のとおりとする。

- (1) 部会長 (1名 本会の運営を統括し、本部役員となる。)
- (2) 副部会長(2名 部会長を補佐し、部会長に事故あるときは職務を代行する。)
- (3) 監事 (2名 本会の業務および会計を監査する。)
- (4) 幹事 (若干名 本会の会務に参加する。)
- (5) 事務局長(1名 本会の事務を統括し、本部との連携を図る。)

(役員を選出と任期)

第6条 本会の役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 部会長は、北海道高等学校教育研究会情報部会加入の校長とする。
 - (2) 副部会長は、北海道高等学校教育研究会情報部会加入の校長、副校長または教頭とし、部会長が委嘱する。
 - (3) 監事は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。
 - (4) 幹事は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。
 - (5) 事務局長は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。
- 2 役員任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 情報部会総会において、役員を報告する。

(事務局)

第7条 本会の事務局は、原則として幹事によって構成される。

2 必要に応じて、札幌市内および近隣の本会会員をその構成員とすることができる。

第4章 会 議

(本部役員会)

第8条 本部の役員会(年3回)には、部会長と事務局長が情報部会を代表し出席する。

(役員会)

第9条 役員会は、部会長が招集し、次の事項を審議する。

- (1) 事業報告および収支決算
- (2) 監事による監査報告
- (3) 事業計画および、収支予算
- (4) 役員の選出
- (5) その他、必要とする事項

2 臨時役員会は、必要に応じて部会長が招集する。

(総会)

第10条 総会は、北海道高等学校教育研究大会の教科別集会において開催し、会の規約や業務、会計に関することなどについて審議する。

第5章 会 計

(経費)

第11条 本会の経費は、北海道高等学校教育研究会からの交付金、およびその他の収入による。

(書記・会計)

第12条 書記・会計に関する業務は、事務局員が担当する。

(会計年度)

第13条 本会の会計年度は、毎年4月1日より始まり翌年3月31日までとする。

第6章 その他

(規約の改廃)

第14条 規約の改廃は、役員会で審議し、総会で承認するものとする。

(細則)

第15条 本会に必要な細則は、別に定める。

附 則

- (1) この規約は、平成15年1月10日より施行する。
- (2) 平成16年1月9日 第6条(2)を改正。
- (3) 平成24年1月12日 第2条、第3条、第6条(2)の一部を改正。
- (4) 平成25年1月10日 第9条を改定。
- (5) 平成30年1月11日 第2条、第3条、第4条、第5条、第6条、第7条、第9条を改正。

5-2 参加者名簿

No.	支部	学校	氏名	参加	ワークショップ ^o	懇親会
1	石狩	札幌北	高橋 昭仁	副部長	—	×
2	石狩	札幌北	前川 繁信	×	—	×
3	石狩	札幌北	前田 健太朗	幹事	運営	○
4	石狩	札幌啓成	東原 昭博	○	C	×
5	石狩	札幌厚別	鈴木 崇令	○	A+B	×
6	石狩	札幌あすかぜ	川村 雅人	×	—	—
7	石狩	札幌東豊	毛内 顯史	部長	—	○
8	石狩	札幌稲雲	堀井 圭司	×	—	—
9	石狩	札幌英藍	梅田 充	幹事	ファシリテータ	○
10	石狩	札幌英藍	鶴間 伸一	幹事	ファシリテータ	○
11	石狩	有朋	奥村 稔	幹事	ファシリテータ	○
12	石狩	野幌	福田 通康	○	A+B	○
13	石狩	千歳北陽	川下 慈博	○	A+B	×
14	石狩	石狩翔陽	木村 久	○	A+B	×
15	石狩	石狩翔陽	中根 孝浩	○	A+B	×
16	石狩	石狩南	澤田 真泰	○	A+B	×
17	石狩	札幌旭丘	高瀬 敏樹	×	—	—
18	石狩	札幌旭丘	指田 あすか	○	A+B	×
19	石狩	札幌旭丘	溝口 義一	○		
20	石狩	札幌旭丘	高木 裕司	○		
21	石狩	札幌藻岩	高木 昭信	×	—	—
22	石狩	札幌清田	後藤 信	×	—	—
23	石狩	札幌新川	杉本 式史	幹事	運営	○
24	石狩	札幌新川	濱出 大芽	×	—	—
25	石狩	札幌大通	天野 将寿	○	C	×
26	石狩	札幌大通	佐々木 大輔	○	A+B	×
27	石狩	札幌大通	佐伯 友美	×	—	—
28	石狩	北海	岡部 征和	×	—	—
29	石狩	札幌静修	石井 翼	○		
30	石狩	札幌北斗	古澤 正三	幹事	運営	○
31	石狩	札幌山の手	長谷川 秀博	×	—	—
32	石狩	札幌龍谷学園	竹本 正慶	○	A+B	×
33	道南	函館西	岩谷 義久	○	A+B	○
34	後志	小樽潮陵	津端 公彦	幹事	運営	○
35	後志	小樽潮陵	佐々木 寛	幹事	運営	○
36	後志	小樽桜陽	林 誠	×	—	—
37	後志	小樽商業	島田 亮子	○	A+B	×
38	後志	高等聾	草間 由紀子	○	A+B	○
39	空知	滝川	池田 弘樹	幹事	運営	○
40	空知	岩見沢高等養護	和泉 友紀子	○	A+B	×
41	道北	旭川北	埴山 悟	×	—	—
42	道北	旭川工業	古屋 順一	副部長	—	×
43	道北	旭川藤女子	鎌田 亮樹	幹事	運営	○
44	道北	旭川実業	藤坂 智亜樹	○	A+B	×
45	オホーツク	北見北斗	小野 慎一郎	○	C	○
46	オホーツク	北見柏陽	敦賀 和芳	×	—	—
47	オホーツク	津別	福光 亮	○	A+B	×
48	オホーツク	滝上	田中 教之	○	C	×
49	釧根	釧路江南	小湊 秀子	○	A+B	○

No.	支部	学校	氏名	参加	ワークショップ	懇親会
50	十勝	帯広柏葉	土田 泰裕	○	A+B	×
51	十勝	帯広緑陽	宮川 尊充	幹事	運営	○
52	十勝	上士幌	鎌田 大	○	A+B	×
53	十勝	帯広北	関谷 朝香	○	A+B	×
54	日胆	伊達	伊藤 崇	幹事	運営	○
55	日胆	白老東	風上 拓弥	○	A+B	×
56	石狩、後志	札幌東、北照高校	梅田 優子	○	A+B	○
57	一般参加	北海道情報大学	山北 隆典	○	A+B	×
58	一般参加	千歳科学技術大学	戸井 建	○	C	×
59	一般参加	千歳科学技術大学	佐藤 拓	○	A+B	×
60	一般参加	青山学院大学	竹中 章勝	○	A+B	○
61	一般参加	東京書籍株式会社	菊池 大輔	○	A+B	×

5-3 懇親会のご案内

高教研研究集会情報部会「大懇親会」

今年も恒例の大懇親会を開催致します。ぜひ、奮ってご参加ください。

日時 平成30年1月11日（木）18:00～20:00

会費 3,500円（飲み放題・税込）

場所 うおや一丁札幌駅店

札幌市北区北6条西1丁目（JR高架下）

電話（050）5828-7347



MEMO

MEMO

情報部会アンケート

※今後の教科別集会、企業展示・企業プレゼンの参考にさせていただきます。本日の内容に関するご意見や感想をお願いします。

質問1 ワークショップについて

(1)参加されたワークショップに○をつけてください。

※ワークショップ A:『情報技術を用いた問題発見・解決の手法や過程に関する学習』を手軽に実現！

～Windows とブラウザだけで十分！～

ワークショップ B:超初心者向け Windows ネットワーク入門

ワークショップ C:ピュアなコードは本質的で本格的～基本処理構文だけとするモデル化とシミュレーション～

ワークショップ A+B	ワークショップ C

(2)ワークショップを選んだ理由をご記入ください。

--

(3)参加されたワークショップはあなたの期待に応えるものでしたか。次の5段階の数値でお答えください。

※5:期待通り、4:ある程度期待した通り、3:どちらともいえない、2:ちょっと期待した内容と異なる、

1:期待した内容ではなかった

ワークショップ A	ワークショップ B	ワークショップ C

(4)参加されたワークショップの難易度を次の5段階の数値でお答えください。

※5:難しい、4:やや難しい、3:普通、2:やや易しい、1:易しい

ワークショップ A	ワークショップ B	ワークショップ C

(5)参加されたワークショップの内容は今後の授業やあなた自身の研修に役立ちそうですか。次の5段階の数値でお答えください。

※5:具体的に何かに役立ちそう、4:何かに使えそうな気がする、3:何とも言えない、

2:あまり役立ちそうにない、1:全く役立ちそうにない

ワークショップ A	ワークショップ B	ワークショップ C

(6)ワークショップの感想、意見・要望などをご記入ください。

--

(7)今後のワークショップの内容としてどのようなものを期待しますか、(○印を記入、複数回答可)

- () 教科書にある内容の授業実践例の紹介。
- () 教科書にないオリジナルな授業の実践例や構想の紹介。
- () 先進的な技術を易しく解きほぐすもの。
- () 情報社会を積極的に理解するためのもの。
- () アクティブ・ラーニングに関するもの。
- () アルゴリズムやプログラミングに関するもの。
- () 観点別評価や形成的評価に関するもの。
- () その他()

質問2 基調講演について

(8) 基調講演の満足度を○で囲んでください。

不満 ちょっと不満 普通 まあ満足 満足



(9) 基調講演の感想・意見・要望などをご記入ください。

(10) 基調講演での来年度以降の講師としてどなたか考えがありましたら、その名前をご記入ください。

質問3 総会について

(11) 内容について意見・感想などをご記入ください。

質問4 閉会式について

(12) 内容について意見・感想などをご記入ください。

質問5 全体を通して

(13) 感想、意見・要望がありましたらご記入ください。

質問6 企業展示・企業プレゼンについて

(14) 全体的な感想、意見・要望がありましたらご記入ください。

(15) 各企業に直接質問したいことや、伝えたいことなどがありましたら、ご記入ください。
 (企業側から質問者あて直接回答したい旨の連絡があった場合には、勤務先とお名前を企業に通知します)

アシアル株式会社
ウルフラムリサーチアジアリミティッド(広告のみ)
株式会社アイ・オー・データ機器
株式会社バッファロー
実教出版株式会社
東京書籍株式会社(広告のみ)
日本データパシフィック株式会社
日本文教出版株式会社
北海道日興通信株式会社
リコージャパン株式会社

※掲載順は社名の50音順

学 校 名		お 名 前	
-------------	--	-------------	--

ご協力ありがとうございました。